



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—3 指数が揃って上昇し史上最高値を更新—

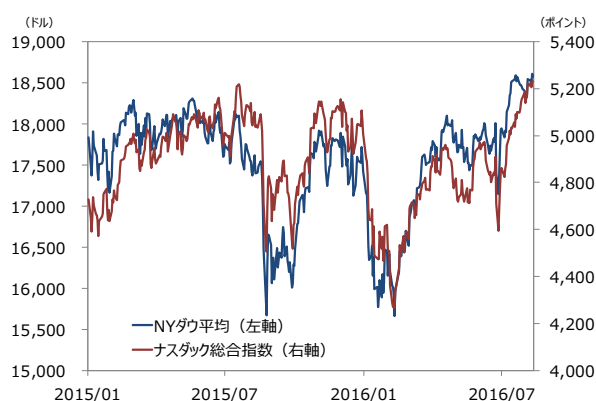
	前週終値	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日	8月12日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,543.53	18,529.29	18,533.05	18,495.66	18,613.52	18,576.47	+32.94	+0.18%
騰落幅		-14.24	+3.76	-37.39	+117.86	-37.05		
S&P500	2,182.87	2,180.89	2,181.74	2,175.49	2,185.79	2,184.05	+1.18	+0.05%
騰落幅		-1.98	+0.85	-6.25	+10.30	-1.74		
ナスダック総合指数	5,221.12	5,213.14	5,225.48	5,204.58	5,228.40	5,232.90	+11.77	+0.23%
騰落幅		-7.98	+12.34	-20.90	+23.82	+4.50		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、主要 3 指数が揃って小幅に上昇し、各指数が史上最高値を更新しました。

各指数は小幅な値動きが続きましたが、11 日に大手百貨店の好決算や原油価格の上昇を手がかりに大きく上昇し、3 指数同時に史上最高値を更新しています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



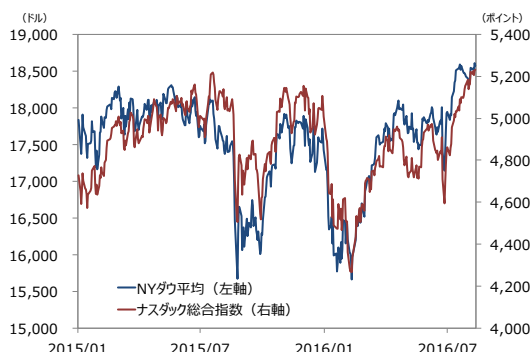
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.6	3.2	2.6%
S&P500	18.6	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.5	3.6	1.2%

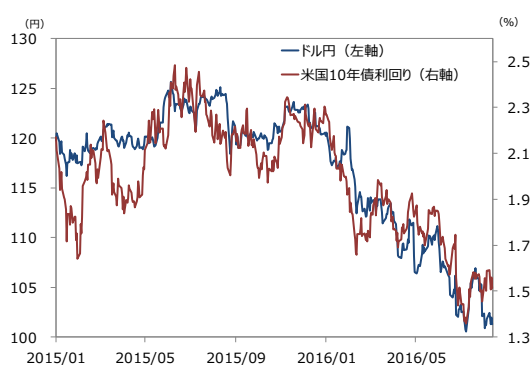
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年8月12日時点)

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

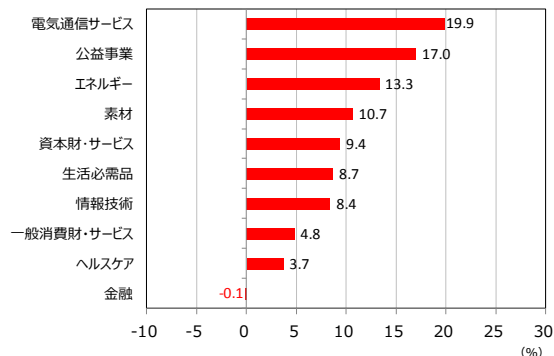
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

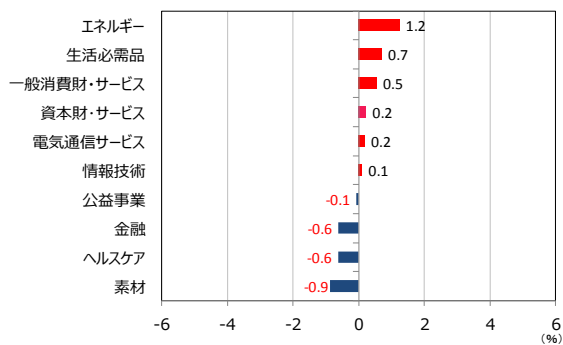
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (8/8-8/12)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CVX	シェブロン	1.6
PG	プロクター・アンド・ギャンブル	1.5
KO	コカ・コーラ	1.3
NKE	ナイキ	1.1
DIS	ウォルト・ディズニー	1.1
UTX	ライテッド・テクノロジー	1.0
BA	ボーイング	1.0
MMM	3M	1.0
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	0.7
AAPL	アップル	0.7

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (8/8-8/12)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ケミカル	-2.3
JPM	JPMorgan Chase & Co.	-1.5
PFE	ファイザー	-1.3
INTC	インテル	-1.2
IBM	IBM	-0.9
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	-0.8
MRK	メルク	-0.8
CSCO	シスコシステムズ	-0.5
HD	ホーム・デポ	-0.2
AXP	アメリカン・エキスプレス	-0.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中15銘柄が上昇しました。原油価格の上昇を受けシェブロン(CVX)がダウ平均構成銘柄中トップの上昇率となりました。また、プロクター・アンド・ギャンブル(PG)、コカコーラ(KO)、ナイキ(NKE)、ウォルト・ディズニー(DIS)など消費財関連銘柄の一角が堅調でした。

<下落>

デュポン(DD)が2%超下落しました。ダウ・ケミカル(DOW)との合併を巡って欧州委員会が調査を始めたことと発表したことで経営統合の先行きを懸念した売りが出ました。

先週発表された主な経済指標

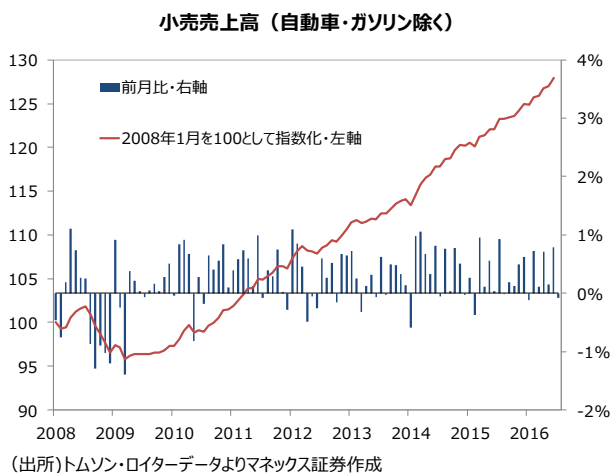
小売売上高（前月比） 7月 ±0% 市場予想 +0.4% 前月 +0.8%

小売売上高（自動車・ガソリン除く） 7月 -0.1% 市場予想 +0.3% 前月 +0.8%

12日に発表された小売売上高は、市場予想を大きく下回るやや低調な内容でした。7月の売上高は市場予想の0.4%増に対し前月比横ばいとどまりましたが、6月分は0.6%増→0.8%増に上方修正されました。

また、変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高は、前月比マイナス0.1%と1月以来半年振りに前月比マイナスとなりました。

低調な結果を受け早期利上げ観測が後退し、金利低下・ドル安が進行しました。



今後発表される主な経済指標

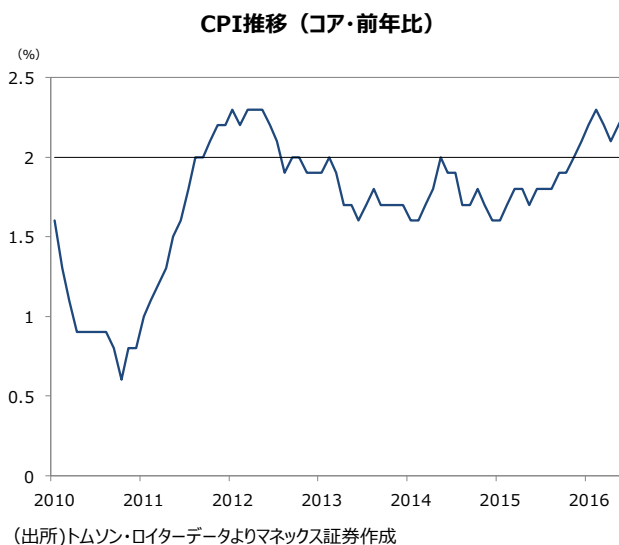
7月

消費者物価指数（CPI・前年同月比） 市場予想 +0.9% 前月 +1.0%

消費者物価指数（CPI コア指数・前年同月比） 市場予想 +2.3% 前月 +2.3%

16日に7月分の消費者物価指数が発表されます。市場予想ではヘッドラインが前年同月比1.0%の上昇、食品・エネルギーを除いたコア指数が前年同月比2.3%の上昇と予想されています。

利上げ判断にも大きな影響を与えるとみられるだけに、結果が注目されます。



マーケットビュー—FOMC 議事要旨と CPI に注目—

先週のマーケットビューでは、予想 PER の高さを根拠に利益確定売りが出やすい局面と記しました。結果的に米国市場の主要 3 指数は利益確定売りをこなしながら小幅に上昇して史上最高値を更新しました。

今週は機関投資家が夏季休暇に入りやすい期間とあって、方向感が出にくく小動きになりやすいとみられます。こうしたなか、注目されるのは経済指標欄で紹介した CPI の発表と 17 日に発表される連邦公開市場委員会 (FOMC) の議事要旨です。どちらも今後の利上げを巡る判断材料として注目されます。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会